



2022年3月期 決算説明会

株式会社SUBARU

代表取締役社長 CEO 中村 知美

2022年5月12日

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

	通期実績					通期計画	
	2021年3月期 実績(a)	2022年3月期 前回計画(b)*	2022年3月期 実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)	2023年3月期 (d)	増減 (d)-(c)
連結販売台数 (千台)	860	740	734	-126	-6	940	+206
生産台数 (千台)	810	-	727	-83	-	1,000	+273
売上収益	28,302	27,000	27,445	-857	+445	35,000	+7,555
営業利益	1,025	1,000	905	-120	-95	2,000	+1,095
親会社の所有者に帰属する 当期利益	765	750	700	-65	-50	1,400	+700
為替レート US\$	¥106	¥112	¥112	+¥6	-¥0	¥120	+¥8

* 2022/2/7 発表値

はじめに、2022年3月期通期実績および
2023年3月期通期計画の概観について、ご説明いたします。

2022年3月期は、世界的な半導体需給ひっ迫の継続や
新型コロナウイルス感染症拡大による部品供給制約などの影響を受け、
国内外生産拠点の生産調整や操業停止を余儀なくされました。

営業利益を始めとした各段階の利益は、原材料価格の高騰や
生産台数減少による連結販売台数の減少などにより、
前年度に対しマイナスとなりました。

続いて通期計画です。

こういった状況ではございますが、
2023年3月期は、主力の北米市場を中心に回復を見込み、
連結販売台数は94万台を計画します。
また連結販売台数を支える生産については、
グローバル全体での在庫水準を少しでも回復させ、
お待ちいただいているお客様にスムーズにお車をお届けできる状況を作るために、
100万台にチャレンジいたします。

以前よりお話している通り、米国を中心とした販売現場では
多くのバックオーダー(受注残)が積みあがっており、
この強い需要にお応えし、1台でも多くの車両を生産し、
1台でも多くの販売に繋げてきたいと考えています。

引き続き、半導体供給に関するリスクは残るものの、
大変厳しかった前年度に対し、増収・増益を見通し、
コロナ前の2020年3月期実績レベルまで戻したいという想いで臨みます。



国内生産体制再編計画について

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

続きまして、私から追加のご報告がございます。

2021年5月、「STEP2.0」の発表にて「電動化に向けたロードマップの加速をしていく」と申し上げました。

今回は、国内生産体制の再編に向けた取組について、皆様に計画の概要をご説明いたします。

CO2削減に向けたロードマップ (2020年1月 SUBARU技術ミーティングにて発信)

2030年 ▶ 全世界販売台数の40%以上を電動車へ (BEV+ハイブリッド車)

2030年代前半までに ▶ 世界中で販売されている全てのSUBARU車に電動技術を適用

2050年 ▶ Well-to-WheelでCO2 90%以上削減 (2010年比)

カーボンニュートラル実現へ貢献

モーター駆動でAWD性能、動的質感が更に進化

電動化の時代においても「SUBARUらしさ」を強化し、
2050年に向けたロードマップを加速させる



スライドにございます通り、技術ミーティングにて2050年に向けたCO2削減のロードマップを発表いたしました。

現在世界で、カーボンニュートラル実現に向けた目標引き上げや取組が更に加速しています。そういった中で、私共SUBARUは昨年11月に発表した初のグローバルBEVであるソルテラを、まさにこの5月から本格的に市場導入いたします。

トヨタ自動車との共同開発を通じて、また、これまでにご提供しております商品に対するフィードバックなどを見ましても、電動化時代においても「SUBARUらしさ」は高められると強く感じております。

「SUBARUらしさ」を追求したBEV ソルテラ

プロトタイプ試乗会を各地で実施

環境が悪くても驚くほどの踏破性を披露した。
……「EVでも雪道を走れる」ではなく、
「EVだからこそ雪道に強い」なのである。

— 木下 隆之 氏 (Sankei Biz)



Current Subaru owners looking to make the switch to an EV will stay with the brand because the Solterra is exactly what they're looking for: an all-electric Subaru.

EVへの乗り換えを考えているユーザーが
SUBARUから離れることはないだろう。
ソルテラはまさに彼らが求めている、EVになっ
たSUBARU車である。

— Beverly Braga, Motor1.com (米国)

Niveau de confiance au maximum. Toutes les sensations qui font tant plaisir derrière le volant de Subaru sont présentes. En effet, je suis si fascinée, que je ne me rends pas compte que je conduis un véhicule électrique.

最高の安心感。SUBARUの愉しさはそのまま。
これがEVであることを忘れてしまうほどだった。

— Bianca H., Movia News (欧州)



多くの方々にSUBARUとBEVの親和性の高さを実感いただけた。

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

5

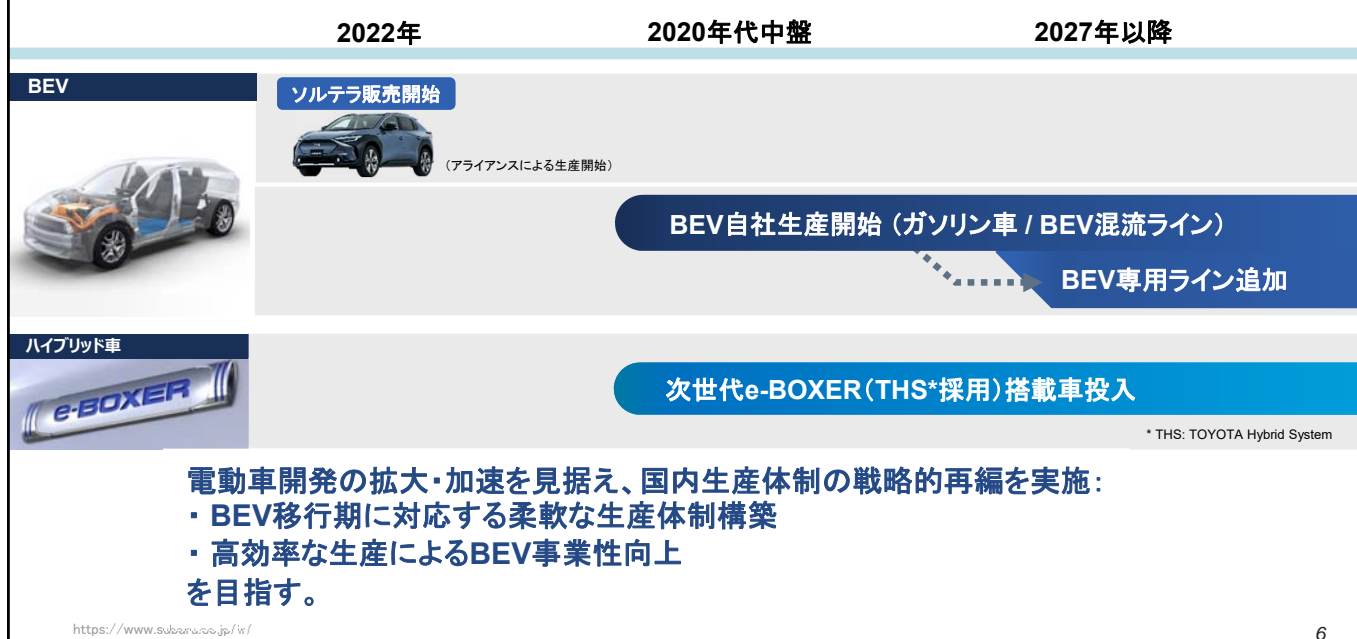
ソルテラは本日5月12日より日本での受注が開始となりますが、今後順次、世界各市場での販売も始まります。

主力市場の米国では、2月の先行受注、4月25日の価格発表以降、既に多くのお客様にご予約をいただいている状況です。

スライドにございます通り、各地で実施した自動車ジャーナリストの皆様向けの試乗会でも、私共が追及する「SUBARUらしさ」を実感できたというお言葉を多くいただいております。

今後は実際にご購入・お乗りいただいたお客様からのフィードバックをしっかりと受け止め、将来のBEV戦略につなげてまいります。

電動車開発の拡大・加速に伴う国内生産体制の戦略的再編



6

次に、国内生産体制の戦略的再編についてご説明いたします。

まず、生産体制のロードマップとしましては、2025年付近をターゲットに、BEVの自社生産に着手し、徐々にBEVの車種や台数を増やしていきたいと考えています。

その先の2027年以降にはBEVの専用ラインの追加も含めて検討を進めているところです。

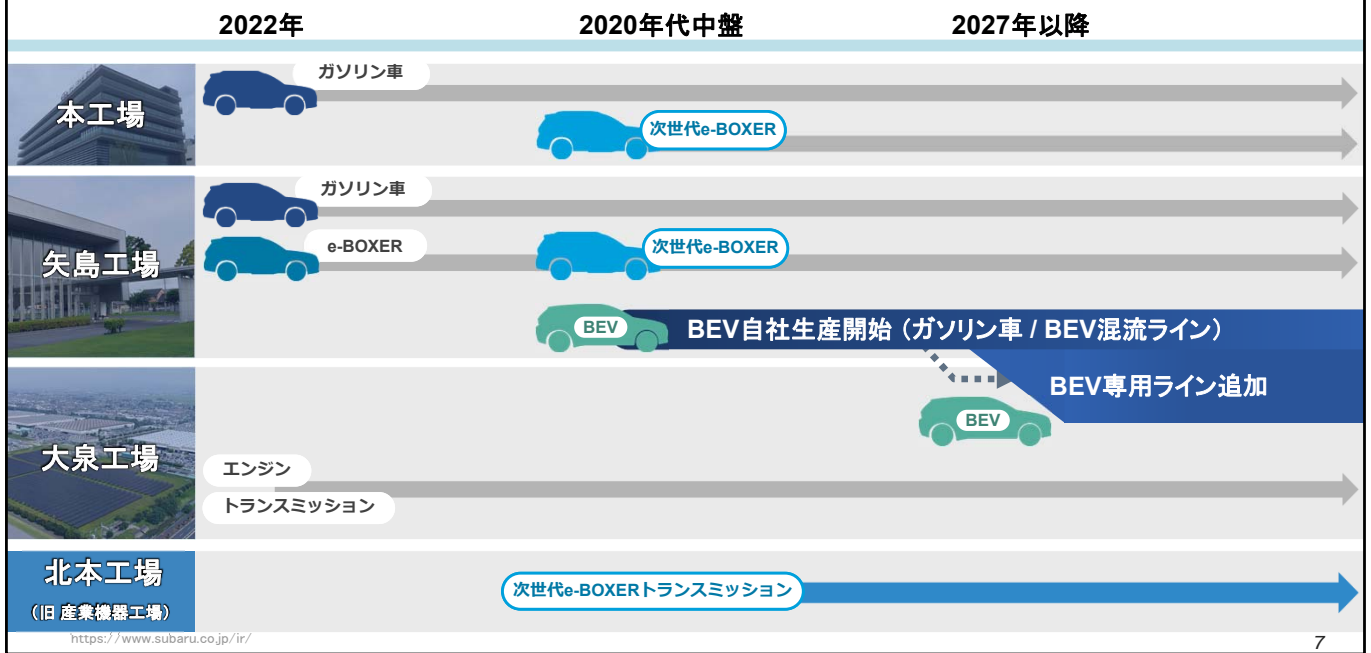
加えて、既に発表しておりますトヨタハイブリッドシステムを採用した次世代e-BOXERの複数車種への搭載も着実に進めてまいります。

生産体制の再編におきましては、以下2点を大きな狙いとしています。

1つ目は、BEVへの移行期においては、必要に応じ、ガソリン車・HEVの生産も確保できる柔軟な体制を構築すること。

2つ目は、収益性にはまだ課題の多いBEV事業においても、効率の良いBEV生産を実現させ、事業性向上を目指す、ということです。

国内生産体制の戦略的再編



続いて、国内生産体制の具体的な内容についてご説明いたします。

まず、パワーユニット工場の再編として、次世代e-BOXERの生産を北本工場へ移管し、大泉工場でのBEV移行へ備える第一歩とします。

2025年付近を予定しておりますBEVの自社生産は矢島工場の混流生産での立ち上げを軸に準備を進めております。

2027年以降となるBEV専用ライン化は大泉工場をターゲットに検討中となります。

電動化戦略推進のポイントは、市場や規制の変化はもちろん、

私共が最も重視すべき、SUBARUのお客様のご要望や嗜好・価値観の変化、

インフラを含めたBEVの利便性を見極めながら、進めていくことだと考えています。

そのような考えのもと、SUBARUのお客様にご満足いただける、お客様を笑顔にできる商品開発、市場環境を踏まえた柔軟性のある生産体制を引き続き整えてまいります。



私からのご説明は以上となります。

2018年には新中期経営ビジョン「STEP」において、2025年以降の大きな時代変革へ備え、着実なペースでの量的成長に加え、質的成長を持ってキャッチアップを図ってまいりたいという話をさせていただき、現在取組を推進しています。

今後、商品、技術、調達体制などの計画につきましても、適時適切なタイミングで皆さまへお伝えしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

続きましてCFOの水間より、決算の詳細および国内生産体制再編にかかる投資計画と資本政策についてご説明させていただきます。



2022年3月期 決算説明会

株式会社SUBARU

取締役専務執行役員 CFO 水間 克之

2022年5月12日

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

2022年3月期 実績

通期実績 連結完成車販売台数・生産台数

(千台)

	2021年3月期 通期実績(a)	2022年3月期 前回計画(b)	2022年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
米国生産	285	-	272	-14	-
国内生産	525	-	455	-70	-
生産台数* 合計	810	-	727	-83	-

	2021年3月期 通期実績(a)	2022年3月期 前回計画(b)	2022年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
連結完成車販売台数 合計	860	740	734	-126	-6

*トヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

11

初めに生産台数および連結販売台数についてです。

半導体需給のひっ迫や、
新型コロナウイルス感染症拡大に起因した部品供給制約などの影響により、
国内および米国生産拠点において、
一時操業停止および生産量の調整が続く年度となりました。

サプライヤー・特約店の皆さまにもご協力を頂きながら、
状況に応じて生産・販売計画を精査し、
影響を最小限に抑え1台でも多く生産・販売できるよう対応してきましたが、

生産台数については、前年度に対し8万3千台の減となる72万7千台、
連結販売台数については、前年度比12万6千台の減、前回計画に対し6千台の減となる73万4千台となりました。

通期実績 連結完成車販売台数(市場別)

(千台)

	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減
登録車	82	73	-9
軽自動車	20	17	-3
国内合計	102	89	-12
米国	612	506	-105
カナダ	50	49	-1
ロシア	5	4	-0
欧州	14	15	+1
豪州	31	33	+2
中国	24	14	-11
その他	23	23	+0
海外合計	758	645	-114
合計	860	734	-126

市場別連結販売台数実績についてはご覧の通りです。

尚、米国市場で大きく減少する結果となりましたが、同市場では昨年度、他市場に比べ早期に需要が回復し、供給水準を戻していたことによるものです。

通期実績 連結業績

(億円)

	2021年3月期 通期実績(a)	2022年3月期 前回計画(b)	2022年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
売上収益	28,302	27,000	27,445	-857	+445
国内	4,983	4,873	4,880	-103	+7
海外	23,319	22,127	22,565	-754	+438
営業利益	1,025	1,000	905	-120	-95
税引前利益	1,140	1,100	1,070	-70	-30
親会社の所有者に帰属する 当期利益	765	750	700	-65	-50
為替レート US\$	¥106	¥112	¥112	+¥6	-¥0
EURO	¥123	¥130	¥130	+¥7	+¥0
CAN\$	¥80	¥89	¥89	+¥9	-¥0

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

13

続いて、連結業績です。

売上収益は、
為替レート差+1,283億円、
販売台数減による売上構成差-1,883億円などにより、
前年度比857億円の減収となる2兆7,445億円となりました。

営業利益は、
前年度比120億円の減益となる905億円となりました。

また、税引前利益は70億円の減益となる1,070億円、
親会社の所有者に帰属する当期利益は65億円の減益となる700億円となりました。

前年実績対比
 通期実績 営業利益増減要因

(億円)



為替影響	+421	諸経費	+115	売上構成差	+73	原価低減等	-725						
US \$	+477	製造固定費	-131	販管費	-169	保証修理費	+415	新車国内	-68	SUBARU	-406	SIA *1	-319
EURO	+12	SUBARU	-131	SIA *1	+0	SUBARU	-121	新車海外	-597	原価低減	+36	原価低減	+35
CAN \$	+65	外製型費	-93	外製型費	+23	国内ディーラー	-	販売奨励金	+493	原材料・市況等	-442	原材料・市況等	-354
中国元	+1	固定加工費	-38	固定加工費	-23	SOA *2	-46	その他	+245				
仕入為替調整	+43			SCI *3	-17								
未実現利益分	-177			その他	+15								

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

次に、前年実績対比の営業利益増減要因です。

販売奨励金の抑制や販売価格の改定、高収益モデルへのMIX改善等により
 販売台数減少の影響をカバーし、
 また為替変動による増益効果等があったものの、
 原材料価格・市況の高騰による影響が大きく、
 前年度に対し120億円の減益となりました。

尚、為替レート差はUSドルで約6円、Euroで約7円、Canadaドルで約9円の円安となりました。

米国市場向け販売奨励金については、
 前年度の台当たり1,300ドルに対し600ドル減となる700ドルとなり、
 奨励金総額としては456億円の削減となりました。

前回計画(2/7発表値)対比

通期実績 営業利益増減要因

(億円)



原価低減等		+61	諸経費			-101	売上構成差		-89	為替影響		-31		
SUBARU	+75	SIA *1	-14	製造固定費	+29	販管費	-27	保証修理費	-103	新車国内	+13	US \$	-56	
原価低減	-1	原価低減	+12	SUBARU	+0	SIA *1	+29	SUBARU	+43	(為替換算影響含む)	新車海外	-331	EURO	+3
原材料・市況等	+76	原材料・市況等	-26	外製型費	-4	外製型費	+1	国内ディーラー	-1	販売奨励金	+113	CAN \$	-10	
				固定加工費	+4	固定加工費	+28	SOA *2	-46	その他	+116	中国元	-	
								SCI *3	+4				仕入為替調整	+64
								その他	-27				未実現利益分	-32

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

次に、前回計画値からの営業利益増減要因です。

営業利益1,000億円達成に向けて、販売奨励金の更なる抑制を中心に、販売台数減による影響を最大限抑えるよう取り組みましたが、期末の急激な円安による製品保証引当金残高の為替換算影響により、保証修理費が増加し、前回計画に対し95億円減となる905億円となりました。

キャッシュフロー / 手元資金状況

(億円)

	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	
営業活動によるCF	2,894	1,957	
投資活動によるCF	-2,722	-1,797	
フリーCF	172	159	
財務活動によるCF	140	-985	
	2021年3月末	2022年3月末	増減
現金及び現金同等物 期末残高	9,073	8,831	-243
有利子負債 期末残高 *	3,339	3,340	+2
ネットキャッシュ	5,734	5,490	-244

*リース負債は上記の実績に含んでおりません。

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

16

次にキャッシュフローおよび手元資金の状況です。

フリーキャッシュフローは159億円となりました。

現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に対し243億円減の8,831億円、有利子負債残高は、前期末に対し2億円増の3,340億円となりました。

その結果、ネットキャッシュは前期末に対し244億円減の5,490億円となりました。

設備投資・減価償却費・研究開発支出

(億円)

	2021年3月期 通期実績(a)	2022年3月期 前回計画(b)	2022年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
設備投資 *1	862	900	861	-1	-39
減価償却費 *1	950	1,000	946	-4	-54
研究開発支出 *2	1,016	1,200	1,138	+121	-62

*1 リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績に含んでおりません。

*2 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載。

尚、IFRSでは当該支出のうち資産性の認められる一部の支出を無形資産として計上し、見積耐用年数に基づき償却するため、連結損益計算書上の「研究開発費」と異なります。(日本基準における連結損益計算書上の研究開発費と一致)

設備投資などの実績については、ご覧の通りです。

2023年3月期 見通し

通期計画 連結完成車販売台数・生産台数

(千台)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期計画	増減
米国生産	272	-	-
国内生産	455	-	-
生産台数* 合計	727	1,000	+273

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期計画	増減
連結完成車販売台数 合計	734	940	+206

*トヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

19

続いて、2023年3月期 通期計画についてご説明いたします。

生産台数および連結販売台数についてです。

依然先行き不透明な状況が続いておりますが、
市場の需要は力強く主力の北米市場を中心に回復を見込み、
連結販売台数は94万台を計画します。

なお、グローバル全体での在庫水準を少しでも回復させ、
お待ちいただいているお客様にスムーズに車をお届けできる状況につなげるためにも、
100万台の生産にチャレンジします。

通期計画 連結完成車販売台数（市場別）

（千台）

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期計画	増減
登録車	73	91	+18
軽自動車	17	24	+7
国内合計	89	115	+25
米国	506	636	+130
カナダ	49	53	+3
中国	14	19	+5
その他	75	118	+43
海外合計	645	826	+181
合計	734	940	+206

市場別の連結販売計画については、ご覧の通りです。

通期計画 連結業績

(億円)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期計画	増減
売上収益	27,445	35,000	+7,555
営業利益	905	2,000	+1,095
税引前利益	1,070	2,000	+930
親会社の所有者に帰属する 当期利益	700	1,400	+700
為替レート US\$	¥112	¥120	+¥8
EURO	¥130	¥130	-¥0
CAN\$	¥89	¥95	+¥6

続いて、連結業績です。

売上収益は、前年度に対し7,555億円増となる3兆5,000億円、

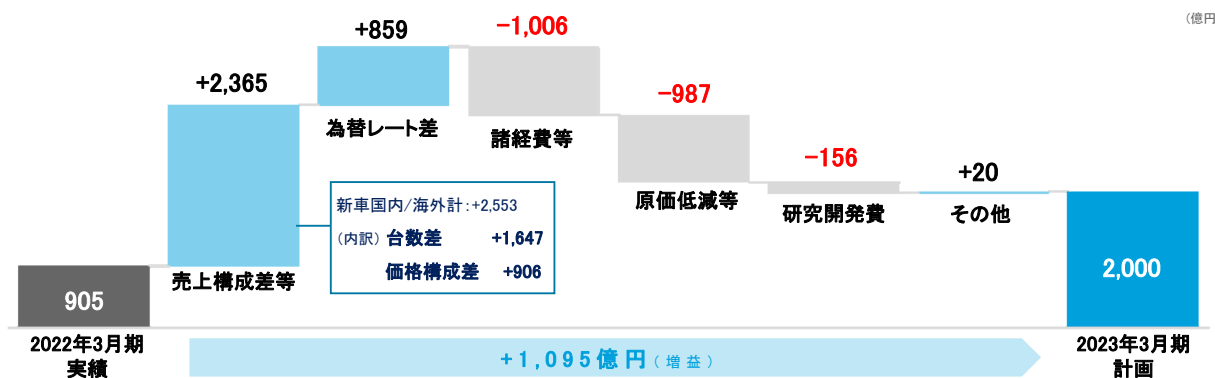
営業利益は1,095億円増となる2,000億円、

税引前利益2,000億円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,400億円を計画します。

前年実績対比

通期計画 営業利益増減要因

(億円)



項目	増減額 (億円)	項目	増減額 (億円)	項目	増減額 (億円)	項目	増減額 (億円)	
売上構成差	+2,365	為替影響	+859	諸経費	-1,006	原価低減等	-987	
新車国内	+261 US \$	+932	製造固定費	-262	販管費	-346	保証修理費	-398
新車海外	+2,292 EURO	-1	SUBARU	-225	SIA *1	-37	SUBARU	-208
販売奨励金	-406 CAN \$	+55	外製型費	-99	外製型費	-30	国内ディーラー	-26
その他	+218 中国元	-	固定加工費	-126	固定加工費	-7	SOA *2	-89
	仕入為替調整	-73				SCI *3	-16	
	未実現利益分	-54				その他	-7	

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

次に、前年実績対比の営業利益増減要因です。

主な増益要因は売上構成差等で、2,365億円の改善となる見通しです。

連結販売台数20万6千台の増加による1,647億円の増加に加え、

車種・グレード間構成の改善及び販売価格の改定による906億円の増加を見込んでいます。

一方、鋼材や貴金属などの原材料価格が高騰しており、

前年度に対し、1,042億円の悪化となる見通しです。

尚、為替レート差は、USDドルで約8円の円安を前提としています。

また、米国市場向け販売奨励金については、

金利上昇を織り込み、前年度の台当たり700ドルに対し200ドル増となる900ドル、

奨励金総額としては333億円の増加となる見通しです。

設備投資・減価償却費・研究開発支出

(億円)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期計画	増減
設備投資 * 1	861	1,400	+539
減価償却費 * 1	946	1,000	+54
研究開発支出 * 2	1,138	1,200	+62

* 1 リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績に含んでおりません。

* 2 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載。

尚、IFRSでは当該支出のうち資産性の認められる一部の支出を無形資産として計上し、見積耐用年数に基づき償却するため、連結損益計算書上の「研究開発費」と異なります。(日本基準における連結損益計算書上の研究開発費と一致)

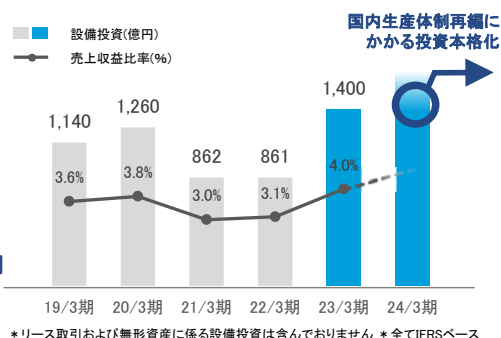
設備投資・減価償却費・研究開発支出については、ご覧の通りです。

電動化戦略の加速に向けて

■ 国内生産体制の戦略的再編をスタート

設備投資

- ・ 経常投資に加え、今回の国内生産体制再編にかかる投資を24/3期より本格化



研究開発支出

- ・ 電動化を加速させつつも、リソースシフトやアライアンスの深化等により、1,200億円/年レベルを維持

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

24

前段、社長の中村から説明しました「国内生産体制の戦略的再編」にかかる今後の投資計画についてご説明いたします。

設備投資は、

市場環境の変化を踏まえた柔軟性と拡張性、事業性や働きやすさ向上につながる効率性をもった生産体制を目指し、

まずは、検討中のBEV専用ライン化を含めたBEVの自社生産、

次世代e-BOXERユニットの生産体制の構築に、5年間で2,500億円の投資を予定しております。

これら投資は2024年3月期以降に本格化します。

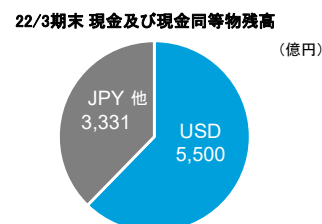
なお、研究開発支出については、

電動化戦略を加速していますが、経営資源のリアロケーションや、アライアンスをベースに競争と協業のメリハリをつけた効率的な研究開発に努め、昨年発表しました年間1,200億円レベルの計画に変更ございません。

電動化戦略の加速に向けて

■ 財務方針を見直し、今後の成長投資にネットキャッシュを活用

- 必要に応じて負債による資金調達を実施
 - 米国を中心とする事業戦略の推進に向け、一定のドル資金は確保
- 自己資本比率50%を維持し、高い財務健全性を確保
- 業界高位の営業利益率(8%)、ROE10%以上の目標は不変



■ キャッシュフローの創出に努め、株主還元の方法は不変

- 配当を主に継続的・安定的な還元を基本としつつ、業績連動の考え方に基づき、毎期の業績、投資計画、経営環境を勘案して決定(連結配当性向:30%~50%)
- キャッシュフローに応じて自己株式取得を機動的に実施

今後の成長投資に向けた資本政策ならびに株主還元についてご説明いたします。

従来、「2月商のネットキャッシュを保持」としていた財務方針の見直しを行い、今後の成長投資にネットキャッシュを活用していきます。

具体的には、米国を中心とする事業戦略の推進に向け、一定のドル資金は確保し、必要に応じて負債を中心とする円資金の調達を行う予定です。なお、自己資本比率は50%を維持し、高い財務健全性の確保にも努めつつ、業界高位の収益性を目指してまいります。

本日、新たな設備投資計画と財務方針の見直しをお話ししましたが、株主還元の方法については、従来から不変といたします。

➤ 一株当たり配当金

	2022年3月期	2023年3月期 予想*
第2四半期末	28	28
期末	28	28
年間合計	56	56
配当性向	61.3%	30.7%

* 配当性向：前期株式数を基に試算

最後に、2022年3月期ならびに2023年3月期の株主還元についてです。

ご説明してきました通り、

新型コロナウイルス感染症拡大や半導体不足などによる当社業績への影響は非常に大きく、

また、未だ先行き不透明な事業環境が続いていること、

今後の資金需要などを含めて総合的に検討しました結果、

2022年3月期の1株当たり年間配当金は、直近の配当予想の通り56円を予定します。

また、2023年3月期の予想は、2022年3月期と同額の1株当たり56円としております。

今後も皆様方のご期待に沿うことができるよう取り組んでまいりますので、

引き続き当社へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

次ページ以降は、セグメント情報等の参考情報となります。

以上で2022年3月期 年度決算の説明を終わります。ありがとうございました。

ご参考

- ・ セグメント情報（事業別 / 所在地別）
- ・ 海外売上収益
- ・ 連結財政状態計算書
- ・ 単独販売台数
- ・ 米国子会社業績
- ・ 第4四半期（3ヵ月）連結業績実績
- ・ 2022年3月期実績（四半期別）
- ・ 生産台数 / 小売台数 推移

通期実績 事業セグメント別業績

(億円)

	売上収益			営業利益		
	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減
自動車	27,375	26,775	-600	1,091	925	-165
航空宇宙	877	623	-254	-98	-70	+28
その他	50	48	-3	31	48	+17
消去・全社				1	1	-0
合計	28,302	27,445	-857	1,025	905	-120

通期実績 所在地別セグメント業績

(億円)

	売上収益			営業利益		
	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減
日本	6,752	6,663	-90	-356	-195	+161
北米	20,302	19,688	-614	1,027	1,109	+82
その他	1,247	1,094	-153	31	29	-2
消去・全社				322	-39	-361
合計	28,302	27,445	-857	1,025	905	-120

通期実績 海外売上収益

(億円)

	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減
北米	20,830	20,040	-791
欧州	536	642	+106
アジア	940	734	-206
その他	1,012	1,149	+137
合計	23,319	22,565	-754

連結財政状態計算書

(億円)

	2021年3月末	2022年3月末	増減
資産合計	34,117	35,438	+1,320
流動資産	19,828	20,422	+594
非流動資産	14,289	15,015	+726
負債合計	16,253	16,427	+174
有利子負債	3,339	3,340	+2
資本合計	17,864	19,010	+1,146
利益剰余金	14,353	14,663	+310
親会社の所有する帰属持分	17,777	18,908	+1,131
親会社の所有者に帰属する持分比率	52.1%	53.4%	+1.3%
D/Eレシオ	0.19	0.18	-0.01

通期実績 単独販売台数

(千台)

	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減
国内生産*	525	455	-70
国内売上	106	90	-15
登録車	84	73	-11
軽自動車	21	17	-4
輸出台数	439	371	-68
海外生産用部品	276	308	+32
単独合計売上	820	769	-51

*トヨタ向けGR86の台数を含む

通期実績 米国子会社業績

(Million US\$)

SOA *1	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減
売上高	18,028	16,257	-1,771
営業利益	966	1,096	+130
当期純利益	831	852	+21
小売販売台数(千台)	640	553	-87
SIA *2	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減
売上高	7,252	7,109	-143
営業利益	-42	-260	-217
当期純利益	-30	-212	-182
生産台数(千台)	285	272	-14

*1 SOA: Subaru of America Inc. *2 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

第4四半期(3ヵ月)実績 連結完成車販売台数

(千台)

	2021年3月期 4Q実績	2022年3月期 4Q実績	増減
登録車	27	19	-8
軽自動車	5	5	-0
国内合計	32	24	-8
米国	155	135	-20
カナダ	11	10	-1
ロシア	2	1	-1
欧州	4	3	-1
豪州	11	7	-4
中国	4	3	-1
その他	10	5	-5
海外合計	197	163	-34
合計	229	187	-43

第4四半期(3ヵ月)実績 連結業績

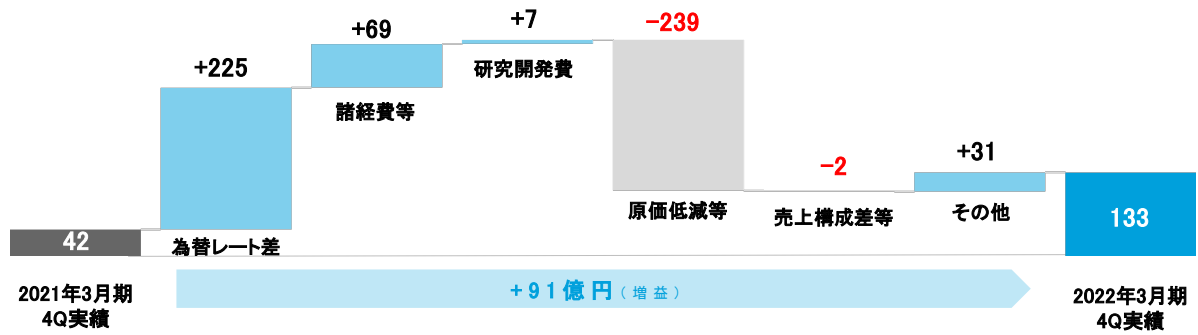
(億円)

	2021年3月期 4Q実績	2022年3月期 4Q実績	増減
売上収益	7,554	7,370	-184
国内	1,558	1,423	-135
海外	5,996	5,947	-49
営業利益	42	133	+91
税引前利益	83	157	+75
親会社の所有者に帰属する 当期利益	23	71	+48
為替レート US\$	¥104	¥115	+¥10
EURO	¥126	¥130	+¥3
CAN\$	¥82	¥90	+¥8

前年実績対比

第4四半期(3ヵ月)実績 営業利益増減要因

(億円)



為替影響	+225	諸経費	+69	原価低減等	-239	売上構成差	-2
US \$	+186	製造固定費	-40	販管費	-29	保証修理費	+138
EURO	-	SUBARU	-17	SIA *1	-23	SUBARU	-43
CAN \$	+8	外製型費	-21	外製型費	-2	国内ディーラー	+3
中国元	+1	固定加工費	+4	固定加工費	-21	SOA *2	+22
仕入為替調整	+13			SCI *3	-2		
未実現利益分	+17			その他	-9		

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.

2022年3月期実績(四半期別)

(億円)

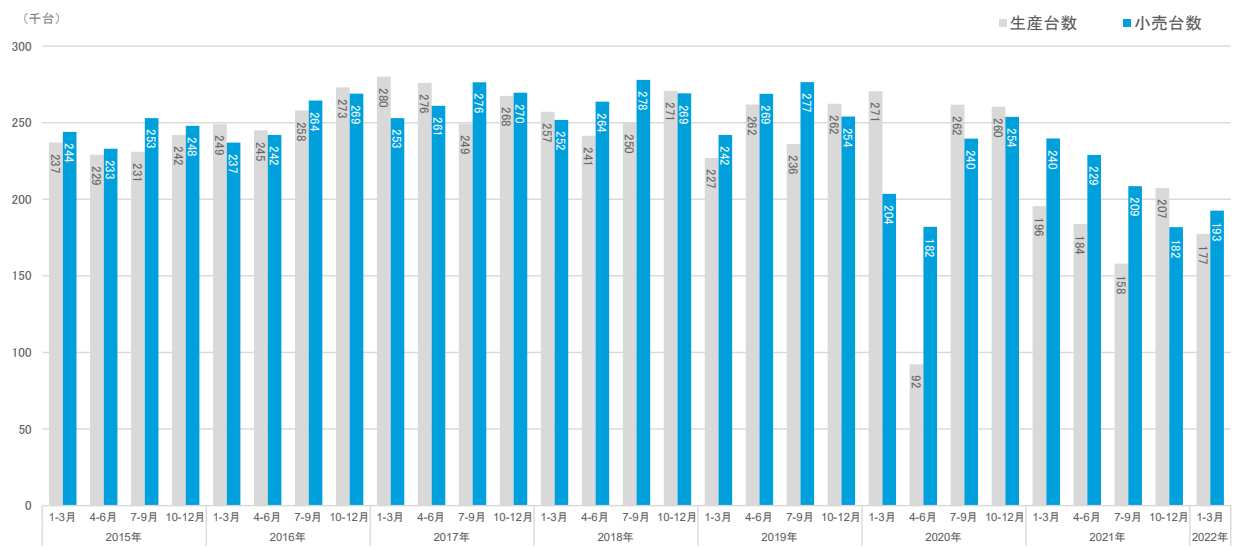
2022年3月期

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績
連結販売台数 (千台)	175	200	172	187
生産* 台数 (千台)	184	158	207	177
売上収益	6,352	7,065	6,659	7,370
営業利益	295	249	227	133
親会社の所有者に帰属する 当期利益	185	263	181	71
為替レート US\$	¥109	¥110	¥113	¥115

*トヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

生産台数 / 小売台数 推移



* 生産台数にはトヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>



SUBARU

本資料に記載されている計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報、予測に基づいた仮定、および判断であり、様々なリスクや不確実性を含みます。将来における当社の実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、需要や為替レートの変動などにより、これらと異なる結果となる場合がございます。投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。本資料に掲載された情報に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社および各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承ください。